



古河ロックドリル(株) Mitsumura Kiyohito
代表取締役社長 三村 清仁

東北リース(株) Kanno Hiroaki
代表取締役 菅野 浩昭

古河機械金属グループの中核を担い、削岩機メーカーでは国内最大手の古河ロックドリル。同社の三村社長が宮城地場レンタル会社の東北リース菅野社長と対談し、今後の展望について語った。



トンネル工事用のジャンボドリルメーカーは、国内唯一

の機械を作る工場になります。特にアタッチメントに関しては内製化率が高く、今後は供給の多い大型機械の部品に関しても内製化を高めていく方針です。また、販売の拡大に向けた増産体制の整備、また更なる品質の向上のための耐久試験場や塗装設備などを充実させる投資を実施しております。

菅野 使用する道具にまでこだわり、良いものを作ろうとする理念や誇りが伝わり、刺激を受けました。ところで、2015年には140周年を迎えたそうですね。

三村 はい。おかげさまで古

機械の品質や

サービスの面が魅力

菅野 きょうはお忙しい中、貴重なお時間をいただきありがとうございます。御社は日本を代表する削孔機メーカーとして世界でも活躍されており、機械の品質はもちろん、サービスの対応などとても素晴らしいと思っています。

三村 ありがとうございます。おかげさまで、オリンピック関連をはじめとした民間需要は非常に堅調で、油圧ブレイカーあるいは圧砕機などが順調に出荷できているほか、北海道新幹線の方も拍車が掛かっている状況です。

菅野 堅調なのも、機械の性能をはじめ、充実したサービス体制やサポートから来る信頼もあると思います。国外についてはいかがですか。

三村 海外売り上げは、全体の約半分を占めておりますが、欧米向け販売は堅調を維持する一方、中東地域は政治や経済の先行き不透明感などにより低迷

しており、地域によりバラついていて状況です。国内はしっかりと支えてくれてなんとか持ちこたえています。東北の情勢はいかがでしょう。

菅野 東日本大震災から間もなく8年が経ち、遅れていた沿岸部なども、だいぶ落ち着いてきました。その中で復興トンネルの工事に際しては、御社が宮古に24時間体制の駐在所を設けていましたね。

三村 震災復興トンネル工事の本格化に伴い、サービスやメンテナンス活動を充実させる目的で設立いたしました。また、それまでは社員は仙台から出向いていましたが、長距離移動などの負担を減らすことも考慮しました。

1918年に国内第1号の手持ち掘削機発売

菅野 サービス面の充実なども、国内トップメーカーたるゆえんなのではないのでしょうか。また、性能で見ても、安全性はもちろん、とにかく頑丈で長持

河機械金属グループは、今年で144周年を迎えます。現在、150周年に向けた長期ビジョン「古河2025ビジョン」を掲げており、「ビジョン」としては、「鉱山開発からはじまり、社会基盤を支えてきた技術を進化させ、常に挑戦する気概を持つて社会に必要とされる企業であり続ける」というものです。その下で弊社は売上目標を400億円、営業利益40億円に設定し、達成に向けて頑張っているところです。

稼働監視を

海外でもチャレンジ

菅野 会社の原点や理念を大切にすることが、長く経営を継続できる基盤なんではないでしょうか。今後の展開として、注力していることはありますか。

三村 是非ともLCS（ライフ・サイクル・サポート）ビジネスを確立したい。購入いただいた製品をその寿命が終わるまで、サービスや部品を提供する中で、お客様に安心、満足して

使っていたら、次回も当社の製品を購入いただくというビジネスサイクルを確立したいと考えております。そのため、ICT技術を活用し、製品の稼働を監視するシステムを導入いたします。これにより、稼働データを蓄積しながら、稼働現場から遠方においても、故障などを未然に防止するためのアドバイスのメンテナンステキ活動を行うことができるようになります。更に、今後は現場の人手不足に対応するために全自動化にも取り組んで参ります。

菅野 われわれも売った機械は長く使っていたら、前回は非常に助かります。

今後、製品の魅力をPRできるように努めていきますので、お互いの夢を達成できるように一緒に頑張っていきたいと思います。本日はありがとうございました。



■みつむら きよひと
1980年に古河鉱業（現・古河機械金属）に入社。同財務部長、同企画推進室長兼財務部長などを経て、2014年に古河ロックドリル代表取締役社長に就任。古河機械金属の常務取締役、常務執行役員を兼務

■かんの ひろあき
1994年8月東北リース代表取締役就任。宮城県建設機械リース業協会前会長、日本建設機械レンタル協会宮城支部前支部長、宮城県レンタルカー協会中央支部の理事、建設車両委員長



古河ロックドリルの製品は安全性が高く、丈夫で長持ちなのが魅力

ち。ユーマーからの要望も多く、ブレイカー、油圧ブレイカーは100割古河さんのものを揃えています。

三村 ありがとうございます。1918年に国内第1号の手持ち掘削機を発売して以降、長く製品開発を続けてきました。経験を生かし、時代の変化に応じたものを作れることが弊社の強みです。

菅野 以前、群馬にある高崎工場、吉井工場を見学させていただいた際には、想像以上に大規模で驚かされました。

三村 高崎はブレイカーなどのアタッチメントを作る工場、吉井は各部品を組み立てて大型